

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



鈴木 裕美 (すすき ひろみ)

みなさん、こんにちは。今年の夏休みもいろいろ制限されましたが、どんな夏休みを過ごされましたか？私は完全にインドアで、オリンピックに涙したり、娘の影響でSnowManやQuizKnock（東大卒生等のクイズ会社）の動画を楽しんだり。息子のススメで甲子園を観たり。気分だけでもリゾート気分になりたいとハンモックを買おうとし、検索していたら1週間で飽きる、結局洗濯物を置いているというレビューに、ひどく納得したのでやめました。「海辺で焚火」にも憧れ、動画で見ました。あれは1/fの揺らぎで眠くなるので、眠れない夜にはおススメです。

今回は、600万年の人類の歴史とそれに適応した進化の結果が今の私たちにどう影響しているのかを考えます

男女の脳から
思春期を考える①

人類は600万年前に生まれ、長い間、狩猟採集をして暮らしていました。男は荒野や山中を1日10~15kmも走り回って獲物を狩り、家まで道路もないのに帰ってきました。女は周囲の果物や木の実を採集し、周りの女たちと協力しながら子どもを育てていました。

男の目は動きや方向に敏感で、空間認知力が高いです（今も男の子は乗り物など動くものが好きで、スポーツが得意）。狩りをするという目的一筋に行動していたので、危ないことは怖くないし、むしろ興奮し、あちこちに注意を向けて動き回る。問題解決型で一つの仕事を追求するのが得意だし、家に帰ると体力温存でスイッチが切れたかのようにダラダラします。

一方、女は子どもの生存率を少しでも上げるために24時間赤ちゃんの顔色や表情を見て世話をし、状態のいい果物を手に入れるために色彩や質感に敏感である必要がありました。だから女は、家でもよく動き、表情を読むのがうまいし、絵を描けばカラフルで暖色を好みます。子どもを無事に育てるためには、他の女性群と協力的になる必要があったので、言語コミュニケーションを大事にし、共感と察する力を発達させました（だから女はよく話すし、話すことでストレス発散ができる）。

私たちの考え方や行動の特徴は、長い間そうすることで生き残ることに有利であった遺伝子が引き継がれた結果です。男が動くものに気をひかれるのも、危険なことを好むのも、すぐ結論を言って話を切り上げたがるのも、そういう脳のつくりなのです。また、女がきれいな色彩の物を好み、危険を怖がり、人と群れたがるのも、そういう脳のつくりなのです。次回は、思春期の子どもにフォーカスして考えてみましょう。



*ここでいう男とは男性型の脳ということで、必ずしも男性みんながそういう傾向にあるわけではありません。女性でも男性型の脳を持つ人もあり、その逆も言えます。